

令和5年度
第1回運営委員会

令和5年 6月23日(金)
島根県立少年自然の家

■

令和5年度 第1回 島根県立少年自然の家運営委員会

日 時 令和5年 6月23日(金)

13:30~15:30

場 所 少年自然の家 第1研修室

13:30 開 会(進行:松川)

- ・少年自然の家所長あいさつ
- ・島根県教育庁社会教育課あいさつ
- ・自己紹介(名簿順に)
- ・委員長互選
- ・資料確認
- ・日程説明

13:45 議 事(進行:委員長)

【報告事項】

1. 令和5年度 運営方針について(所長) 資料1
2. 令和5年度 事務分掌及び主催事業について(三浦) 資料2・3
3. 令和5年度 受け入れ事業及び受け入れ状況について(荒木)
4. 令和5年度 施設管理方針について(管理事務所長)

【協議事項】

1. 報告事項を受けて
2. その他

15:25 閉 会(進行:松川)

- ・少年自然の家所長あいさつ

令和5年度 第1回 出席者名簿 (敬称略)

区分	No.	氏名	ふりがな	所属等	出欠
運営委員	1	安達 利幸	あだち としゆき	松江市立宍道小学校長	欠席
	2	井口 猛	いぐち たけし	江津市立桜江中学校長	欠席
	3	石山 忍	いしやま しのぶ	和木地区主任児童委員	出席
	4	鍛冶 恵巳子	かじ えみこ	施設協力団体代表	欠席
	5	河村 美広	かわむら よしひろ	江津市子ども会連合会々長	欠席
	6	坂本 博美	さかもと ひろみ	のぞみ保育園園長	出席
	7	佐田尾 志おり	さだお しおり	元少年自然の家所長	出席
	8	田中 茂秋	たなか しげあき	益田市立安田小学校長	出席
	9	田中 利徳	たなか としのり	江津市教育委員会教育長	欠席
	10	内藤 まり子	ないとう まりこ	出雲市立遙堪小学校長	出席
	11	南口 修	なんこう おさむ	都野津町づくり協議会事務局長	出席
	12	舟木 志郎	ふなき しろう	江津市立高角小学校長	出席
	13	山口 慶子	やまぐち けいこ	公益財団法人しまね海洋館魚類展示課長	出席
県社会教育課	14	藤原 秀樹	ふじはら ひでき	総務課長(兼)	
少年自然の家	15	河本 誠二	かわもと せいじ	所長	
	16	三浦 洋子	みうら ようこ	社会教育主事	
	17	荒木 友子	あらかき ともこ	社会教育主事	
	18	大野 勝義	おおの かつよし	社会教育主事	
	19	松川 成治	まつかわ じょうじ	社会教育主事	
	20	山藤 明利	さんとう あきとし	会計年度任用職員	
	21	(公財)しまね文化振興財団少年自然の家管理事務所長			

令和5年度 第1回運営委員会 会場座席表

黒板

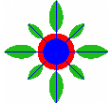
会場: 第1研修室

委員長席

傍 聴 席	石山委員					内藤委員
	坂本委員					南口委員
	佐田尾委員					舟木委員
	田中茂秋委員					山口委員
	松川	荒木	三浦	河本所長	藤原 総務課長	管理事務所長
	大野	山藤				

参考資料

資料 1	令和 5 年度	少年自然の家運営方針	P1
資料 2	令和 5 年度	組織及び事務分掌	P6
資料 3	令和 5 年度	実施予定主催事業概要一覧	P7



令和5年度 少年自然の家運営方針

島根県立少年自然の家
所長 河本 誠 二

はじめに

かつて多くの子どもたちは、仲間と自然の中で遊びながら、あるいは地域の中で様々な自然体験・社会体験を経験しながら成長する機会に恵まれていました。しかし、都市化・少子化の進行、電子メディアの普及（IT化）、地域とのつながりの希薄化など社会の激しい変化の中で、これまで身近にあった遊びや体験の場、本物を見る機会が少なくなり、その手立ても継承されなくなってきています。また、物が満ち溢れ、便利・快適・安全な今日の社会では、子どもたちが自ら考えて行動したり、全力を出したりする機会が減少しており、子どもたちの「社会を生き抜く力」を育むためには、目標をもって体験活動などにチャレンジする機会を意図的・計画的に創出する必要があります。

令和3年9月に発表された文部科学省の調査によると、子どもの頃の自然・社会・文化的な体験活動は、自尊感情や外向性、精神的な回復力といった心の健康の基盤を養う上で、重要な意味を持つことが明らかになっています。その中でも、自然環境での体験活動は、人を健康にし、心を丈夫にするだけでなく、後世への豊かな自然を残す意識の育成にもつながると考えられています。また、子どもたちの体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係構築の資質・能力が高いことが分かっています。

感染症拡大防止、対策により、学校教育の場で子どもたちの学びや活動に数多くの制限が加えられ、かつ、得るべき必要な体験活動ができず、心への栄養不足と心の健康の基盤をつくる機会が奪われてきました。今こそ、社会教育や体験活動による学びへの期待がますます高まっています。

ここ島根県立少年自然の家では、恵まれた自然環境を生かした野外活動や創作活動などを行っています。また、集団生活を通して学校や家庭では身につけがたい「規律・協同・友愛・奉仕」などの尊さを学ぶ場としても、また多少の「避便・避快・避自由」な状態を経験する場としても適しています。さらに、生涯学習社会を豊かに生きることができるよう、年齢を問わず県内外の方々にさまざまな体験活動の場を提供しています。

このような状況の中で、「体験活動は人づくりの『原点』である」という認識の下、今年度は次のような理念をもって運営していきます。

◇家三則

- 一 愛こそ教育の根源である 常に笑顔で見守れ
- 一 体験教育を尊重し 自ら額に汗を流せ
- 一 長所の発見に努め ほめる教育に徹せよ

「愛」とは...
人として尊重すること・一人一人を大切にすること、一緒に同じ方向を向くこと

「笑顔」とは...
相手に元気や安心感を与えること、周囲をもハッピーな気分にする

「体験教育」とは...
将来への生きる力や困難に打ち克つ力を育むこと

「自ら額に汗」とは...
利用者や施設のためによいと思ったこと、安全を確保するために、進んで行動に移すこと

「長所の発見」とは...
一人一人の頑張りと成長の様子を見つけ讃えること

「ほめる教育」とは...
やる気や良さを引き出したり、自信を持たせたりする言葉を投げかけること

1. 目 標

- 青少年はもとより広く県内外の利用の方々に、自然のすばらしさと共同生活のすばらしさを味わっていただくために、目的や実態に沿った、また安全に配慮した様々な活動プログラムを用意し、心に残る感動的な体験活動となるように全職員で支援する。

2. 基本方針

- (1) 青少年教育を力強く支援する学校及び学校外教育活動としての研修内容の充実を図る。
- (2) おもてなしと感謝の心をもって、組織全体で対応する。
- (3) 利用者に豊かな体験活動を提供するために、主催事業、受け入れ事業、活動プログラムの充実を図る。
- (4) 社会のニーズや課題に応える事業の企画・推進に努める。
- (5) 学校、社会教育関係団体、民間企業、地元、大学等との連携強化を図る。
- (6) 利用促進のための効果的で多様な啓発活動と情報発信に努める。
- (7) 「自然の家」にふさわしい環境に配慮した施設設備と充実、事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導の徹底を図る。

3. 主要課題（ミッション）

- (1) 利用者の拡大と満足度の向上 → 研修者数目標 20,000 人
利用者満足度平均 90%以上
- (2) 「CAPDo サイクル」機能の充実 → まず現状把握：評価（振り返り）⇒改善策
- (3) 活動プログラムの改善・開発 → 今日の課題や利用者のニーズを加味

4. 運営の重点（具体的な方策）

(1) 主催事業

- 1) 子どもたちの「生きる力」を育む場として...
 - ・ 幼児や小学生を対象に、年齢や発達段階に応じて楽しみながら野外活や自然遊び動等を体験することにより、忍耐力や対人関係等の社会性を身に付けるための事業を実施する。
(「ジュニア・サマー・キャンプ」「かわいい子には旅をさせよう」等)
- 2) 家族（親子）の絆を深める場として...
 - ・ 幼児、小・中学生およびその家族（親）を対象に、自然体験を通して親子の絆を深め、健全な家族づくりを手助けするための事業を実施する。（「チャレンジ・ザ・サマー」「ミニキャンプ」等）
- 3) ボランティア養成を図る場として...
 - ・ 小学校高学年や中学生を対象に、ボランティアとしての知識・技能を身に付け、実践意欲や実践的指導力を高める事業を実施する。
(「ボランティアスタッフ養成講座」等)

- 4) 青少年社会教育施設での野外体験（キャンプ・バーベキュー等）活動機会の充実の場として...
 - ・ より多くの児童・生徒に、野外体験活動の機会を提供する事業を実施する。
（「エンジョイ!アウトドア」「わくわく・どきどき・スプリング」）
- 5) 施設の利用拡大を図る場として...
 - ・ 施設を開放し、少年自然の家の活動プログラムを多くの人々に体験してもらう機会提供するとともに、地域資源を有効活用することで、本施設のよさを知ってもらう事業を実施する。
（「わくわく外遊びデー」「オープンデー」など）
- 6) 体験活動の普及啓発と公民館等への事前支援・職員研修
 - ・ 地域の体験活動支援事業の推進（青少年の家と共催）

(2) 入所団体受け入れ事業

- 1) 研修効果を高める工夫
 - ・ 入所団体が研修目的や学級・子どもの実態に応じた効果的な活動ができるように、気軽に相談に応じたり、多様なプログラムを準備・提案したりする。
 - ・ 研修目的が効率的に達成できるよう、「利用団体指導者研修」のもち方を工夫する。
- 2) 職員間の情報共有の徹底
 - ・ 集団の様子や配慮が必要な子どもについて、事前に入所団体の担当者からいろいろ情報を集めて適切な支援につなぐ。
 - ・ こまめな連絡（電話、メール、ファックス等）と記録に努める。
- 3) 親切丁寧、誠意のある対応
 - ・ 笑顔を大切に、個々の子どもへの認め・励ましの言葉かけや支援を工夫する。
 - ・ わかりやすい説明（短時間で、ポイントを押さえて）を心がける。
 - ・ 対応できないことや種々の要望などに対して、きちんと理由を付けて説明するなど適切な対応に努める。

(3) 施設環境・設備の充実

安全で安心して思いっきり活動できる施設

＝安全で安心して思いっきり力を発揮し勤務できる職場

- 1) 危機管理体制及び事故の未然防止の徹底
 - ・ 入所者の命を最優先に、随時、入所者の人数把握と健康観察の徹底、気象情報等の収集・把握と利用者への提供・注意喚起を促す。
 - ・ 自然災害や感染症等における対応マニュアルを職員一人一人が熟知し、人命の安全と被害防止に努める。
 - ・ 事故発生時の緊急及び連絡体制を明確にしておく。
 - ・ 施設周辺で発生した事件・事故等にも気を配り、入所者に危険が及ばないように努める。
 - ・ 防災・消火訓練、救命救急訓練を実施し、緊急有事の場合に備える。
 - ・ 食堂スタッフとの連絡会を定期的に関き、安全・安心して食の提供ができるよう

にする。

2) 施設安全管理のための環境整備活動の充実

- ・ 定期的に施設・設備の点検・整備と環境整備を実施する。特に閑散期には、念入りな点検と修繕・営繕を行う。

(4) 働きやすい環境づくり（ライフワークバランス）と職員の資質向上

1) チームで、仕事に取り組む。

- ・ 自分のよさ（得意なところ）を生かす。不得手なところや不十分なところは、お互いに助け合う、協力し合う。

→「感謝・尊敬・寛容」の気持ちで接し、お互いのよさを認め合える職場

※「粒ぞろいより粒違い」

→困り事や悩み事を気軽に相談し合える職場 ※対話と笑顔を大切に

- ・ 「ハウ(報)レン(連)ソウ(相)クエ(Que.)」の徹底

→共通理解の徹底 相談を大切に

- ・ 新しいことにチャレンジする。

→うまくいなくても OK。ミスではなく、何もしないことが失敗。

キーワードは、「とりあえず」「どうせなら」

- ・ 体調管理と適度な休息を心がける。

→年次有給休暇の積極的な取得の呼びかけ

2) 公務員、教育施設職員としての自覚と資質の向上

- ・ 言葉遣い一つにも気をつけ、人権感覚を磨く。
- ・ 各種研修会に積極的に参加し、施設職員としての知識・技能を高める。
- ・ 活動プログラムの指導・支援の方法について職員研修を実施する。
- ・ 来客や業者、電話への誠実な対応に心がける。

→来客への明るくあいさつ、入所団体への気持ちのよい出迎えと見送り（心から）

3) 定期的な業務内容の点検と改善

- ・ 入所者への利用アンケート結果を参考に業務遂行の在り方を検討し、入所者の目線に立った支援や管理運営を図る。
- ・ 各主催事業後の評価（振り返り）や計画的かつ定期的な施設評価により改善点を明確にし、より良い施設運営を図る。

(5) 利用促進

1) 自然の家に来てもらうためのきっかけづくり

（自然の家のよさ、体験活動のよさが実感できるプログラムの提供）

- ・ ホームページやブログ、YouTube、LINE（ライン）公式アカウントの活用をする。

- ・ リーフレットやチラシを県内の公共施設や道の駅等に設置する。
 - ・ 新聞やケーブルテレビなどマスコミへの働きかけ
 - ・ オープンデー、わくわく外遊びデーの工夫
- 2) 冬期閑散期の対応
- ・ 通学合宿、部活動（勉強）合宿、企業研修等への勧誘
- 3) 県内のふるさと体験活動（ふるさと教育）を支援
- ・ プログラム立案支援やキャンプの相談、自然の家のプログラムや活動支援のノウハウを広げる。（保・幼・小・中学校、公民館等）
- 4) 自然の家の応援団をつくる
- ・ 地元江津市との連携（行政機関、NPO法人、民間企業等）
 - 地域人材リストの作成と活用、地域連携プログラムの推進

(6) 今年度の重点課題

- 1) アフターコロナに向けて（変化とチャンス）
- 2) 一生に残る学び(わくわく)につながるアクティビティ・プログラムを改善・提供
- ・ 学力向上につながるという視点をもつ
 - ・ スムーズにうまく活動できるためのていねいな説明は大切
 - ・ そこから一歩先に⇒考えさせる場面も大切
 - ・ 障がい者スポーツへの取組（障がい者理解教育の推進）
- 3) 地域づくりを担う人づくりに資する青少年教育施設という視点をもつ
～ボランティア育成を通して～

今年度キャッチコピー

「自然の家から 温かい空気を 『できた!』『わくわく!』を増やそう」

利用者に最後は笑顔で帰っていただく。そのためには…。

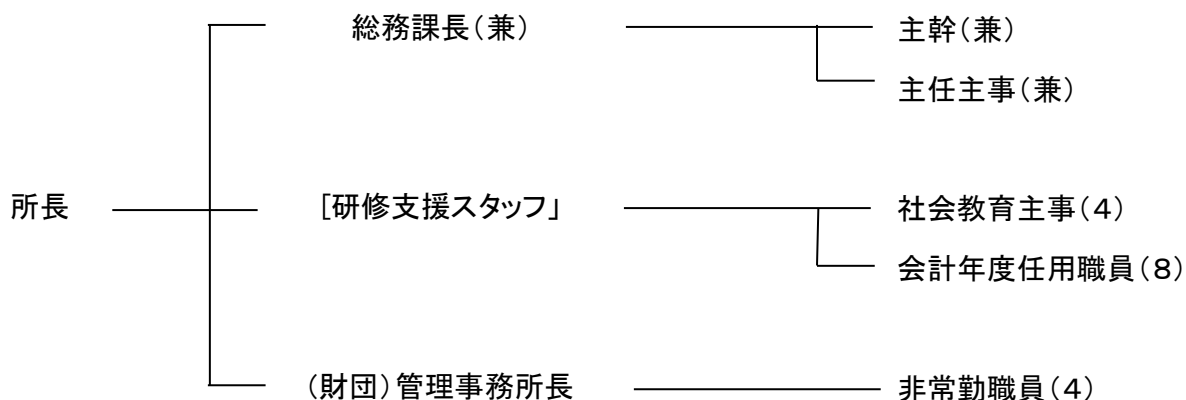
職員も行動だけでなく、気持ちで…。

心が元気な人は みんなを元気にする

自分を大切に 家族を大切に 仲間を大切に

令和5年度 組織及び事務分掌

1. 所内組織



2. 職員

職名	氏名	区分	事務分掌	
所 長	河 本 誠 二	県	総括	
総務課	課 長(兼)	藤 原 秀 樹	県	課内総括
	主 幹(兼)	青 砥 智 訓	県	課内予算管理
	主任主事(兼)	吉 浦 杏 奈	県	課内庶務・会計
研修支援スタッフ	社会教育主事	荒 木 友 子	県	研修支援スタッフ総括
	社会教育主事	大 野 勝 義	県	研修支援スタッフ総括
	社会教育主事	松 川 成 治	県	研修支援スタッフ総括
	社会教育主事	三 浦 洋 子	県	研修支援スタッフ総括
	会計年度任用職員	井 田 昭 彦	県	研修指導補助
	会計年度任用職員	山 藤 明 利	県	研修指導補助
	会計年度任用職員	田 中 敬 通	県	研修指導補助
	会計年度任用職員	森 幹 男	県	研修指導補助
	会計年度任用職員	荒 木 秀 樹	県	宿泊指導並びに警備業務
	会計年度任用職員	木 村 弘	県	宿泊指導並びに警備業務
	会計年度任用職員	城 山 末 麿	県	宿泊指導並びに警備業務
	会計年度任用職員	能 見 秀 基	県	宿泊指導並びに警備業務
施設管理業務は、公益財団法人しまね文化振興財団に委託 管理事務所長のほか非常勤職員4名				

令和5年度 実施予定主催事業概要一覧

No.	事業名	期日・対象・定員	内容
1	利用団体指導者研修会(前期)	期日:4/26(水) 対象:4月～9月16日入所予定団体担当者 定員:40名	宿泊活動の事前研修、プログラムの作成
2	家族ではじめよう！ キャンプ講座	期日:①5/20(土) ②5/21(日) 対象:小中学生とその家族 定員:12家族	自然の良さの体感及び、キャンプの基礎的な知識、技術の習得
3	第1回運営委員会	期日:6/23(金) 対象:運営委員13名	今年度事業計画、運営方針等協議
4	ミニ・キャンプ	期日:7/8(土)～9(日) 対象:小学生とその保護者 定員:12家族	家族の交流を深めるための夏のお手軽キャンプ
5	利用団体指導者研修会(後期)	期日:7/28(金) 対象:9月17日～3月31日入所予定団体担当者 定員:30名	宿泊活動の事前研修、プログラムの作成
6	ジュニア・サマー・キャンプ	期日:7/30(日)～8/4(金) 対象:小学5・6年 定員:24名	非日常体験での気づきをもとにした新たな自分の発見・追求、人間関係づくりをめざした長期宿泊体験活動
7	チャレンジ・ザ・サマー	期日:8/19(土)～20(日) 対象:小学生とその保護者 定員:30家族	親子の交流を深めるための夏の体験活動
8	子ども探検隊	期日:10/14(土)～15(日) 対象:小学3・4年生 定員:40名	探検的要素を盛り込んだ自然体験活動
9	オープンデー	期日:10/29(日) 対象:誰でも(高校生以下は保護者同伴)	施設開放による体験活動(野外活動、創作活動、各団体・個人ブース)
10	森と海のつどい	期日:11/4(土)～5(日) 対象:小学生とその保護者 定員:20家族	自然の家とアクアスでの体験活動
11	エンジョイ！アウトドア	期日:11/10(金) 対象:西部地区教育支援センター他	炊飯や冒険の森を楽しむ野外体験活動
12	かわいい子には旅をさせよう！	期日:①11/18(土)～19(日) ②12/2(土)～3(日) 対象:小学1・2年生 定員:各回32名	自主・自立の精神を養うための自然遊びや集団宿泊体験活動
13	ジュニア・ウインター・キャンプ	期日:12/23(土)～24(日) 対象:小学4・5・6年生 定員:32名	人間関係能力を育むため、厳寒期における短期集団宿泊体験活動
14	ボランティアスタッフ養成講座	期日:2/10(土)～11(日) 対象:主催事業参加者(小・中学生) 定員:30名	ボランティアの意欲やスキルを高める体験活動
15	第2回運営委員会	期日:2/22(木) 対象:運営委員13名	今年度事業報告、施設整備・修繕報告、今年度の課題協議
16	わくわくどきどきスプリング	期日:3/9(土)～10(日) 対象:ひとり親家庭 定員:20家族	自然体験、宿泊体験活動による親子の絆づくり。
17	わくわく外遊びデー	期日:原則毎月1回(日曜日)開催 前泊可 対象:誰でも(高校生以下は保護者同伴)	施設を開放し、外遊びや自然遊びを楽しむ家族の体験活動

.